

寅さん歩 その26

東京の主要道路の起点～終点



浅草通りー2

平野 武宏

道路名の標識・経路案内標識や標識の数字・その形に興味を持った寅次郎、東京の主要道路を起点から終点まで道路標識を頼りに歩いて、各交差点で交差する道路を学びたいと思い、2021年10月から「不忍通り」、「白山通り」、「春日通り」、「明治通り」、「昭和通り」、「平成通り（番外編）」、「靖国通り（元 大正通り）」、「内堀通り」、「目白通り」、「目黒通り」、「本郷通り」、「世田谷通り」、「江戸通り」、「外堀通り」、「山手通り」、「環二通り」、「外苑東通り」、「外苑西通り」、「永代通り」、「中央通り」、「桜田通り」、「新大橋通り」、「日比谷通り」、「清澄通り」、「晴海通り」、「新宿通り」、「青山通り」、「玉川通り」、「尾久橋通り」、「尾竹橋通り」、「言問通り」、「墨堤通り」、「多摩堤通り」、「三ツ目通り」、「四ツ目通り」、「早稲田通り」と歩いてきました。

今回は「浅草通り」を歩いています。浅草通りは台東区東上野の昭和通りの上野駅交差点を起点に、江東区亀戸の明治通りの福神橋に至る延長約5kmの道です。写真右上は浅草通りの道路名標識（都道463号線）です。道路法上の道路名は吾妻橋一丁目交差点から都道453号線に変わります。

浅草通りは吾妻橋を経由するコースと駒形橋を経由する二つのコースがあります。今回は駒形橋を経由するコースを歩き吾妻橋コースと合流します。

掲載の写真は人や車の密を避けた時間帯に撮影しました（一部は以前の訪問時の写真もあります）。詳細を知りたい方は各道路のホームページをご覧ください。最寄駅は交通機関を利用した場合の代表駅です。

バーチャルウォークの途中経過も報告します。

「寿四丁目交差点」 台東区寿四丁目

最寄駅 東京メトロ銀座線 田原町駅

前回の吾妻橋コースは寿四丁目交差点(写真下左)を左折、国際通りを歩きました。今回の駒形橋コースは直進して駒形橋方面へ向かいます。



[駒形橋西詰交差点] 台東区雷門二丁目 最寄駅 浅草駅

雷門二丁目交差点（写真下右）で江戸通り（国道6号線）と交差します。
左へ行くと言問橋方面、右へ行くと浅草橋方面です。



[駒形堂] 台東区雷門二丁目 最寄駅 浅草駅



「浅草観音示現の地」に祀られる「駒形堂」で本尊は馬頭観世音菩薩。駒形堂の創建年代は朱雀天皇の天慶5年（942年）で、名称の由来は隅田川から見ると堂は白駒が駆けている「駒駆け」説、観音様へ寄進する絵馬を掛けた「駒掛け堂」説、駒形神を相州箱根路から勧請したことに因むなどの説がある。

[駒形橋]

関東大震災後の復興事業で1927年（昭和2年）に隅田川にかけられた橋（写真下左）で墨田川が台東区と墨田区の区境です。写真下右は橋から見た前方の風景で東京スカイツリー、ビールジョッキの形のアサヒビール本社ビル、スーパーライホールの上にある「炎のオブジェ」が並んでいます。「炎のオブジェ」はフランス人デザイナーにより設計された「躍動するアサヒビールの心」の象徴とのことです。



[駒形橋東詰交差点] 墨田区吾妻橋一丁目最寄駅 浅草駅

交差点名は表示が見当たらないので寅次郎が勝手に付けました。駒形橋東詰交差点（写真下左）で清澄通り（都道453号線）と交差し、清澄通りを歩きます。写真下左の左へ行く道です。写真下右の駒形橋は渡って振り返ったものです。



[吾妻橋一丁目交差点] 墨田区吾妻橋一丁目

最寄駅 都営地下鉄浅草線 本所吾妻橋駅

吾妻橋一丁目交差点（写真下右）は墨堤通り（都道 461 号線）の起点です。墨堤通りは左方向に進み、墨田区役所・向島方面です。清澄通り（都道 453 号線）もここが起点で右方向の本所方面に進みます。浅草通りは都道 453 号線に名が変わり直進です。左から来た吾妻橋コースとここで合流します。



[吾妻橋交番交差点] 墨田区吾妻橋二丁目

最寄駅 都営地下鉄浅草線 本所吾妻橋駅

吾妻橋交番交差点（写真下右）で三ツ目通り（都道 319 号線）と交差します。左へ行くと墨田公園方面、右へ行くと本所三丁目・石原三丁目方面です。浅草通りは直進して押上・東京スカイツリー方面に向かいます。



[業平橋] 墨田区 吾妻橋三丁目

最寄駅 都営地下鉄浅草線 本所吾妻橋駅

業平橋（写真下左）です。東京スカイツリーは下部しか写りません。橋の下は大横川親水公園（写真下右）になっています。大横川親水公園は1993年（平成5年）大横川の多くの部分を埋め立て造られた全長約1.8kmの親水公園です。業平（なりひら）は伊勢物語で有名な平安時代の歌人 在原業平に由来します。



[押上駅前交差点] 墨田区押上一丁目

最寄駅 東京メトロ半蔵門線 押上駅



押上駅前交差点（写真上左）で四ツ目通り（都道 465 号線）と交差します。左へ行くと京島方面、右へ行くと錦糸町方面です。右上の東京スカイツリーの写真は四ツ目通りを歩いた時に撮ったお気に入りのものです。

[十間橋交差点] 墨田区業平五丁目

最寄駅 東京メトロ半蔵門線 押上駅

左側を流れる「北十間川」は川面に「逆さ東京スカイツリー」が見られる名所です。十間橋交差点を左に入った「十間橋」から眺めました。



[法性寺・柳島橋] 墨田区業平五丁目

最寄駅 東京メトロ半蔵門線 押上駅



右側に「柳嶋妙見山法性寺」(写真上左)の看板がありました。1492年(明応元年)創建の日蓮宗の寺院で葛飾北斎が信仰した寺と知られています。寺伝によると北斎は生活困窮と画業の大成を開運の妙見様に21日間通い、満願の日の帰路に雷に打たれ失神、目を覚ました時から運が開けて以来たびたび参詣に訪れたとのこと。

浅草通りは「柳島橋」(写真上右)を渡ります。柳島橋の下は左を流れていた北十間川から分岐した横十間川が流れています。北十間川は本所の「北」を流れ、川幅が「十間」の運河です。北十間川は浅草通りに並行して流れます。北十間川・横十間川は墨田区と江東区の区境です。

[福神橋交差点] 江東区亀戸三丁目

最寄駅 東武亀戸線 東あずま駅

明治通り(都道306号線)交点の「福神橋」(写真下右)が浅草通りの終点です。



福神橋手前に「祐天堂」がありました。元禄年間に祐天上人が千葉方面に往來の途中、この付近の川の中や川岸に多くの水死者のあるのを見て、その霊を回向し、石に戒名を記した供養塔を残されました。後年、この供養塔を奉った祠が祐天堂です。写真下右は福神橋です。



写真下左は福神橋から見た東京スカイツリーと北十間川の逆東京スカイツリーです。写真下右は福神橋交差点で左へ行くと東向島方面、右へ行くと亀戸・南砂方面です。



これにて浅草通りの起点から終点を歩きました。昔からの賑わいが健在する浅草と東京スカイツリータウンの誕生による新しい賑わいが感じられた道でした。

[バーチャルウォーク途中経過]

八柳修之さん作成の多くのバーチャルウォークコースがFWAホームページ「YR・四季の道」に掲載されています。寅次郎、現在はバーチャルウォーク 松尾芭蕉とあるく「奥の細道」に挑戦しています。

全行程約600里(約2400km)の長旅なので最後までたどり着けるか心配ですが、目標があれば元気に生きられると強がっています。

2022年4月26日、江戸深川(現在の江東区深川)を出発、2023年6月15日松岡・天龍寺(現在の福井県永平寺町)(江戸深川から1927km)に到着しました。この後は12km先の永平寺へ向かいます。

八柳さんのコースシートには、次の「奥の細道」本文の評釈と俳句の注釈が掲載されています。

天龍寺の住職は、旧知の間柄なので訪問する。金沢の北枝(ほくし)という者が、ほんのそこらまでと見送りながら、とうとうここまでついて来た。この男は、道すがらも所々の風景を見逃さずに句案を続けて、時折趣深い着想の句など聞かせてくれた。今、いよいよわかるるに際して、

「物書きて 扇ひきさく なごりかな」

(注釈：夏中手慣れた扇も、おりから手放すべき季節になったが、君とも
いよいよ別れねばならぬときが来た。別離の形見に融和の吟を書き
つけて、二つに引きさき、それぞれに分けて名残としよう)

毎日の運動不足対策や事情で例会に参加できない場合はマイお散歩コースを見
つけ、その歩いた距離を累計して楽しむバーチャルウォークを始めませんか。
FWAのHP「YR・四季の道」の「バーチャルウォークコーナー」は各コー
スが紹介され、各コースシートが印刷できます。
また「ひとり歩きコーナー」には地図付きの各コースがありますので選んで印
刷して利用ください。

平野 寅次郎 拝